

全体貸借対照表

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	395,995	固定負債	50,735
有形固定資産	345,766	地方債	40,618
事業用資産	196,210	長期未払金	3
土地	132,438	退職手当引当金	8,715
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	142,355	その他	1,400
建物減価償却累計額	△83,207	流動負債	6,433
工作物	11,886	1年内償還予定地方債	4,036
工作物減価償却累計額	△8,678	未払金	887
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	963
航空機	-	預り金	235
航空機減価償却累計額	-	その他	312
その他	-		
その他減価償却累計額	-	負債合計	57,168
建設仮勘定	1,415	【純資産の部】	
インフラ資産	140,197	固定資産等形成分	410,817
土地	78,966	余剰分（不足分）	△46,508
建物	1,746		
建物減価償却累計額	△664		
工作物	107,037		
工作物減価償却累計額	△47,640		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	752		
物品	12,083		
物品減価償却累計額	△2,723		
無形固定資産	7,586		
ソフトウェア	5		
その他	7,581		
投資その他の資産	42,644		
投資及び出資金	3,764		
有価証券	3,068		
出資金	696		
その他	-		
投資損失引当金	△253		
長期延滞債権	1,074		
長期貸付金	1,376		
基金	36,797		
減債基金	-		
その他	36,797		
その他	7		
徴収不能引当金	△120		
流動資産	25,483		
現金預金	9,662		
未収金	948		
短期貸付金	138		
基金	14,684		
財政調整基金	14,684		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	134		
徴収不能引当金	△83		
繰延資産	-		
資産合計	421,478	純資産合計	364,310
		負債及び純資産合計	421,478

※ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

全体行政コスト計算書

自 令和06年 4月 1日

至 令和07年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
経常費用	146,503
業務費用	78,551
人件費	13,071
職員給与費	8,653
賞与等引当金繰入額	953
退職手当引当金繰入額	727
その他	2,738
物件費等	40,827
物件費	32,531
維持補修費	913
減価償却費	7,383
その他	0
その他の業務費用	24,653
支払利息	292
徴収不能引当金繰入額	108
その他	24,253
移転費用	67,952
補助金等	46,242
社会保障給付	21,629
他会計への繰出金	-
その他	81
経常収益	35,844
使用料及び手数料	3,845
その他	31,999
純経常行政コスト	110,660
臨時損失	627
災害復旧事業費	129
資産除売却損	42
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	456
臨時利益	2,812
資産売却益	2,647
その他	165
純行政コスト	108,475

※ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

全体純資産変動計算書

自 令和06年 4月 1日

至 令和07年 3月31日

(単位：百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	357,860	404,803	△46,943
純行政コスト (△)	△108,475		△108,475
財源	114,143		114,143
税収等	65,074		65,074
国県等補助金	49,070		49,070
本年度差額	5,668		5,668
固定資産等の変動 (内部変動)		5,265	△5,265
有形固定資産等の増加		10,242	△10,242
有形固定資産等の減少		△9,643	9,643
貸付金・基金等の増加		7,459	△7,459
貸付金・基金等の減少		△2,793	2,793
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	749	749	
その他	33	-	33
本年度純資産変動額	6,450	6,014	436
本年度末純資産残高	364,310	410,817	△46,508

※ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

全体資金収支計算書

自 令和06年 4月 1日

至 令和07年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	138,656
業務費用支出	70,704
人件費支出	13,074
物件費等支出	33,429
支払利息支出	292
その他の支出	23,909
移転費用支出	67,952
補助金等支出	46,242
社会保障給付支出	21,629
その他の支出	81
業務収入	147,821
税金等収入	65,144
国県等補助金収入	46,933
使用料及び手数料収入	3,816
その他の収入	31,928
臨時支出	129
災害復旧事業費支出	129
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	9,036
【投資活動収支】	
投資活動支出	13,590
公共施設等整備費支出	9,176
基金積立金支出	4,364
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	50
その他の支出	-
投資活動収入	4,550
国県等補助金収入	2,071
基金取崩収入	2,229
貸付金元金回収収入	138
資産売却収入	84
その他の収入	28
投資活動収支	△9,039
【財務活動収支】	
財務活動支出	5,752
地方債償還支出	5,381
その他の支出	371
財務活動収入	5,407
地方債発行収入	5,407
その他の収入	-
財務活動収支	△345
本年度資金収支額	△348
前年度末資金残高	9,775
本年度末資金残高	9,426
前年度末歳計外現金残高	176
本年度歳計外現金増減額	59
本年度末歳計外現金残高	235
本年度末現金預金残高	9,662

※ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

1. 重要な会計方針

有形固定資産等の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
イ 昭和60年度以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価

有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的以外の有価証券
ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)
イ 市場価格のないもの……………取得原価
- ② 出資金
市場価格のないもの……………出資金額

有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物 6年～50年
工作物 6年～60年
物品 2年～20年
- ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
(ソフトウェアについては、当市における見込利用期間(5年)に基づく定額法によっ
ています。)
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内の
リース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リー
ス取引を除きます。）
……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

引当金の計上基準及び算定方法

- ① 投資損失引当金
市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実
質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。
- ② 徴収不能引当金
未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上していま
す。
長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上し
ています。
長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上して
います。
短期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上して
います。
- ③ 退職手当引当金
期末自己都合要支給額を計上しています。
- ④ 賞与等引当金
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込
額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

全体資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物としています。

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

採用した消費税等の会計処理

税込方式により処理しています。なお、下水道事業会計については税抜方式により処理されております。

その他全体財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品、ソフトウェアその他の無形固定資産の計上基準

物品（美術品を含む）については、取得価額又は再調達原価が100万円以上の場合に資産として計上しています。なお、内容や量に鑑み資産価格の把握が困難な美術品については、備忘価額1円として計上しています。

ソフトウェアその他の無形固定資産についても物品の取扱いに準じています。

② 資本的支出と修繕費の区分基準

資産の価値を高め、又は耐久性を増すこととなると認められる場合は資本的支出とし、それ以外の通常の維持管理や損壊した場合の原状回復にかかった費用は修繕費として処理しています。

2. 重要な会計方針の変更等

該当ありません。

3. 重要な後発事象

該当ありません。

4. 偶発債務

保証債務及び損失補償債務負担の状況（総額、確定債務額及び履行すべき額が確定していないものの内訳（全体貸借対照表計上額及び未計上額））

立川市土地開発公社の金融機関等からの借入債務に対し、次のとおり保証を行っています。

履行すべき額が確定していない損失補償債務等（貸借対照表未計上額）285百万円

係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの

① 東京地裁（立川支部）令和4年（ワ）第3078号国家賠償等請求事件

（原告Aに対し）42百万円及びうち30百万円に対する令和4年10月1日から支払い済まで年5分の割合による金員

（原告Bに対し）4百万円及びうち3百万円に対する令和4年10月1日から支払い済まで年5分の割合による金員

② 東京高裁平成6年（行コ）第227号生活保護基準引下げ違憲処分取消等請求控訴事件

令和6年6月13日に保護変更決定（処分）を取消し、及び国家賠償請求を棄却する旨の地裁判決が言い渡され、第一審原告及び被告の双方が控訴したが、第一審原告の控訴内容が分からないため、損害賠償等の額は不明。

5. 追加情報

連結対象団体（会計）の一覧、連結の方法（比例連結の場合は比例連結割合を含みます。）及び連結対象と判断した理由

連結の方法は次のとおりです。

① 地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

一般会計等 一般会計：全部連結

公営企業会計 下水道事業会計：全部連結

その他 特別会計競輪事業：全部連結

その他 特別会計国民健康保険事業：全部連結

その他 特別会計駐車場事業：全部連結

その他 特別会計介護保険事業：全部連結

その他 特別会計後期高齢者医療事業：全部連結

出納整理期間について、出納整理期間が設けられている旨（根拠条文を含みます。）及び出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としている旨、出納整理期間が異なる連結対象団体（会計）がある場合は当該団体（会計）の一覧と修正の仕方

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。